

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

1 単元名 幕張スイーツプロジェクト ～We love さつまいも♡～

2 単元について

児童は、総合的な学習の時間を「みんなと協力して」「自分たちや家族、地域の人の生活がよくなる」ものにしたいと話し合い、学習課題を探ることにした。学校や学校の周りのことを調べると、昆陽神社や学校行事で行っている「こん陽祭り」、校章、さつまいもを使った商品など、この地域にはさつまいもと関係のあるものが多く存在しているということに気付いた。しかし、青木昆陽やさつまいもが幕張と関係していることについて漠然とは知っているものの、なぜ地域で大切にされているのか疑問が残った。そこで、学区内にある「青木昆陽甘藷試作地」を管理している教育委員会教育振興部文化財課の方に青木昆陽の幕張との歴史について話を聞き、古くから幕張の人々は青木昆陽の業績に感謝し、さつまいもをその象徴として大切にしていたことを理解し、感銘を受けた。しかし、地域の人にアンケート調査を行ったところ、幕張とさつまいもの関係があまり知られていないことがわかった。これらのことをもとに学習していきたいことを話し合った結果、児童は、みんなでさつまいもの魅力を生かしたものを商品してもらうことで、幕張のまちとさつまいもの歴史的関係を地域の人たちに伝え、さつまいもに愛着をもってもらい、地域の誇りを忘れずにいてほしいという思いを高めていった。

児童が興味をもって取り組むことができるように、幕張にさつまいもが使用された食べ物が数多くあることに気付かせ、その理由を探る中で青木昆陽がさつまいもの栽培のしやすさを生かして飢饉から多くの人々を救ったことを理解できるようにしていきたい。さつまいもを使用した商品の考案及び宣伝をする過程では、食材としての魅力や、他の地域の食を生かした地域振興の取組、宣伝の仕方などについて情報収集を行い、さつまいもの魅力を生かした商品を作ったり幕張とさつまいもの関係性を含めて効果的に宣伝したりすることを目的として話し合いを重ねることで、多面的に考える力を身に付けさせたい。また、さつまいもを使った商品を販売している店や印刷会社と関わることを通して、相手の思いを考えることの大切さや、試行錯誤しながら諦めずに取り組むことの重要性、協力しながら1つの目標に向かって取り組むことで得られる充実感などを感じ取ってほしいと考える。さらに、「幕張とさつまいも」を未来に繋げようと自分たちが活動できたことから、今後も幕張のまちに愛着をもち、自分たちにできることを考え続けて生活しようとするを期待している。

3 単元目標

「より多くの人に幕張の偉人である青木昆陽のことを伝えたい」という思いの実現に向け、さつまいもを使った食べ物を商品化する活動を通して、食に関わる様々な知識の理解を深めたり、商品を販売するまでの取組や人々の思いに気付いたりして、幕張とさつまいもの関係性を伝えられるような商品を考えるとともに、幕張のまちに対しての愛着を深め、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①さつまいもは飢饉を救った食べ物であり、多くの種類や豊富な栄養があることで知られ、様々な調理方法で食べられている魅力ある食	①幕張と青木昆陽の関わりや地域への調査から課題を見出し、その解決に向けて行いたいことについて順序を考えながら計画を立てたり、解決す	①さつまいも商品を通して幕張とさつまいもの関係を伝えるという活動を通して、わかったことなどを見つめ直し、自己の変容を捉えようとしている。

<p>べ物だと理解している。</p> <p>①商品を販売している店や広報する人々の取組や思いを知ること、商品には様々な人の努力や工夫が詰まっていると理解している。</p> <p>②図や表を使って整理するよさを理解し、目的に応じて考えるための手法を活用して、多面的に捉えたり、焦点化したりしている。</p> <p>③商品化を通して地域に愛着をもてたことは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>る過程の中で新たに課題を見付けたりしている。</p> <p>②幕張とさつまいもの関係や商品販売までに必要なことなどについて、調べる対象や内容を適切に判断して情報を集め、内容ごとに分類しながら蓄積している。</p> <p>③さつまいも商品を販売・宣伝するために、情報を整理したり、事実を多面的にとらえたり、焦点化したりしている。</p> <p>④地域の人により幕張とさつまいもの関係性が伝わる方法を考え、内容や構成相手を工夫して表現している。</p>	<p>②地域で行った調査をもとに、さつまいもと幕張の繋がりを広めるために成し遂げたいことを明確にして、その実現に向けて粘り強く取り組んでいる。</p> <p>③商品販売に協力してくれる方や友達の意見に共感したり違いを受け入れたりしながら積極的に意見を交換したり、役割を分担したり支えあったりしながら協力して課題解決に取り組んだりしている。</p> <p>④さつまいも商品の販売を通して、幕張のまちに愛着をもち、自分と幕張との関わり方について考えを見直そうとしている。</p>
---	---	---

知・技 ①概念的な知識の獲得 ②いつでも、滑らかに、安定して、素早く発揮することが可能な技能の獲得
③探究的な学習のよさの理解

思・判・表 ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現

主体的 ①自己理解 ②主体性 ③他者理解・協働性 ④将来展望・社会参画

5 研究の視点

視点1 「地域教材」を生かした単元構成の工夫

幕張は、青木昆陽がさつまいもを試作した地であるからこそ、さつまいもの商品開発について探究的に学習を進めていくことで、さつまいもそのものについてだけでなく、地域の歴史や人々の生き方、考え方まで深く学ぶことができると考える。

第一次では、千葉市立郷土博物館のエデュケーターの先生から、幕張で青木昆陽が称えられるようになった歴史的背景について話を聞く機会を設定する。幕張の人がさつまいもに対して愛着をもつようになった理由を理解したり、青木昆陽の偉業を後世に残そうとしている人の思いに触れたりすることで、自らも幕張の一員としてさつまいもを身近に感じたり、青木昆陽の功績を未来に伝え続けたいという思いをもったりできるだろう。

第二次では、さつまいも商品の販売を通して幕張の人に青木昆陽やさつまいもに愛着をもってもらおうという願いの実現に向けて、さつまいもを使ったお菓子を販売している店を取材する。開発するに至った経緯について話を聞くことで、海浜幕張という新しく住み始めた人ばかりの場所でも、青木昆陽の業績が認められていることを知り、その存在を更に誇りに感じるだろう。また、海浜幕張の企業や住民、学生などが協力して商品開発を行った話を聞くことで、地域に関係する様々な人たちが地域のためを思って行動しており、どのような立場人でも地域活性化の役割を担うことができるということに気付かせ、自分たちのさつまいも商品開発への意欲を高めたい。さつまいもを使用したお菓子を考案する過程では、さつまいもの栄養や種類、様々な調理法などについて調べ、優れた食材であると認識することで、さつまいもが幕張から広まったことの価値を高め、さつまいもへの愛着も深まるであろう。

第三次では、自分たちで企画したさつまいものお菓子の宣伝をするために、学区内で印刷事業を行っている方に協力してもらいながら活動を進める。その会社は、千葉の魅力や活躍する人々などを発信する Web サイト制作にも携わっており、ポスターやチラシなどの印刷物の作り方を学ぶだけでなく、地域の魅力を発信することの意味や思いについて学ぶことができると考える。

このように、地域教材を生かした単元構成で学習を進めることで、児童は地域における自己の生き方との関わり方について考え、自らの故郷への愛着をもち故郷のためを思って行動できるようになり、将来的に、積極的に社会に参画しようとするようになるだろう。

視点2 情報や思考を可視化・操作化・共有化する工夫

本学年の児童は、昨年度までに何パターンかの思考ツールを活用して学習を行った。しかし、教師に与えられた思考ツールで数回取り組んだだけなので、今年度は様々な考えるための技法があることを理解するとともに、情報を可視化・操作化することで他者と考えを共有しやすくなるという基本的なことを理解したうえで、目的に応じて活用できるようにしていきたい。

「考える」ということを細分化してとらえるために、朝の学習の時間を活用して考えるための技法の例をこれまでの学習経験を想起させながら紹介したり、簡単なテーマで練習したりする。その際に、まずは自由に話し合わせ、その後に思考ツールや付箋などを使って話し合うことで、話し合い方の違いについて考えさせ、情報や思考を可視化・操作化するよさを実感させたい。

初めての思考ツールを使用する場合には、その思考ツールを使用する意味を理解できるように導入の仕方を工夫するようにする。例えば、他教科の学習で、「分類する」という技法について Y チャートを用いて習得する場合、意図的に Y チャートの分け方になるように児童の考えを板書していく。その後、Y チャートを描き、それぞれのグループの名前をつけることで、その図が何を意味しているのか、言葉で教え込むのではなく、児童が認識しやすいように思考ツールを提示する。

このようにして、「考える」といっても「比較する、分類する、多面的にみる」など様々な方法があることや、図や表などに整理しながら考えると分析しやすくなるということを3年生で理解できるようにしたい。

総合的な学習の時間では、「考える」際に、まず、どの考えるための技法が必要となるかクラス全体で検討し、必要となる思考ツールがあるかも話し合う。場合によっては、教師が支援しながら活動の目的にふさわしいものを選択できるようにしていく。また、タブレット端末を利用して、画面共有を行うことで友達の意見を手元で確認しながら比較検討できるようにするなど ICT 機器も積極的に活用して思考を深められるようにする。振り返りでは、活動内容との振り返りとともに、その時間の思考の仕方についても振り返ることで、1年間の積み重ねや成長を感じられるようにする。

視点3 「目指す子どもの姿」と関連した評価

およそどの教師も同じように判断して適切な評価を行うことができるようにするため、「目指す子どもの姿」を設定している「目指す子どもの姿」は様々な観点から設定しており、それら全ての観点について評価するためには、多様な場面や方法で児童の学びを見取る必要がある。主として以下のように各過程で計画的に評価を行うことで、児童の成長を多面的に捉えられるようにしていきたい。

課題設定の場面では、学校とさつまいもが深く関連していることや、地域の調査、さつまいもを使った店への取材などとの関わりを通して、自分が成し遂げたいことを明確にもち、その解決に向けて取組の順序を考えて計画を立てることができているか、話合いの様子や個々の計画表をもとに評価する。情報収集の場面では、情報を収集する手段について、その効果を考えながら検討したり、取材の事前準備や実際に取材を行う場面で、課題解決のために有益な情報を得ようとしていたりしているか、取材メモや国語科と横断して行う報告文、活動の状況などから評価する。また、内容ごとに分類して蓄積しているかポートフォリオから評価する。整理・分析の場面では、さつまいもの商品を企画・宣伝するために必要な情報を選択して、目的に応じて考えるための技法を活用しながら、友達や協力してくれる地域の人々の考えに共感したり、違いを受け入れたりして整理・分析しているか、思考ツールに表現したことや話合いの様子を観察して評価する。まとめ・表現の場面では、相手意識や目的意識をもち、友達と役割を分担したり、助け合ったりしながら、店へのプレゼンテーションやチラシ・ポスターの作成をしているか、活動の状況やプレゼンテーションの様子、制作物などから評価する。また、毎時行う児童の振り返りや学習の状況から、課題解決に向けて粘り強く取り組んだり、自己の成長や幕張のまちの特色を捉え

たりして、幕張のまちのためにできることを考え、自ら行動しようとしていたりしているか評価する。

児童の自己評価や相互評価にも「目指す子どもの姿」を活用する。3年生の総合的な学習の時間での目標として、「目指す子どもの姿」をわかりやすい言葉に換えて児童に示す。必要に応じて、授業に関係する観点の「目指す子どもの姿」と本時のめあてを関連させて導入時にも確認することで、身に付けたい力を児童自身が意識して学習に取り組めるようにする。毎時の振り返りでは、その時間と関連する「目指す子どもの姿」の観点を児童に説明したり、児童に考えさせたりしながら観点を示し、授業内容と結び付けながら文章で振り返りを行うように促す。言葉を考えながら書くことで、個々が学びを捉えなおし、学びが自分に与えた影響やこれからの課題について自覚することができるようになると思う。

6 単元計画（70時間）

過程	主な学習活動	時数
第一次 幕張とさつまいもの関係を探ろう（19時間）		
課題設定	○3年生で目指す総合的な学習の時間について話し合う。 ○学校の周りや学校のことを調べて気になることを話し合い、取り組む課題を決める。	5
情報収集	○青木昆陽甘藷試作地や昆陽神社を管理している方に、青木昆陽やさつまいもと幕張の関係について取材する。 ○校章の由来や「こん陽祭り」が学校行事として行われる理由について校長に取材する。 ○地域の人に青木昆陽やさつまいもと幕張の関係についてのアンケートを行う。	7
整理分析	○地域の人に行ったアンケートをグラフ化したり、地図上にまとめたりして整理する。 ○取材でわかったことと、地域の人に行ったアンケート結果とを比較する。 ○さつまいもを使って地域の人に幕張とさつまいもの関係を広めるための活動を考える。 (→さつまいもを使った商品を販売)	5
まとめ表現	○これまでの活動で感じたことやわかったことについて話し合い、振り返りをまとめる。	2
第二次 さつまいもを使った商品を考えよう（26時間）		
課題設定	○さつまいもを使った商品を完成させるまでの見通しをもつ。	2
情報収集	○さつまいもを使った商品を販売している店を取材する。 ○地域ならではの食材を生かして地域活性化を行っている商品を調べる。 ○さつまいもの種類や調理方法などについて栄養士に取材する。 ○さつまいもを使った商品の販売に協力してくれる店を取材する。 ○さつまいも料理を調べる。	10
整理分析	○さつまいもを使った商品や、幕張とさつまいもの関係がわかりやすい商品の名前をグループごとに考える。 ○グループで考えた商品の中から、店に提案するものを選ぶ。	4
情報収集	○自分たちが考えた商品を店の方に提案して、アドバイスをいただく。 ○地域の方々が食べてみたいさつまいも商品を調査する。	3
整理分析	○地域の方々の意見を表やグラフを用いて整理する。 ○店の方と地域の方々の意見を踏まえて、商品を改善する。	2
まとめ表現	○自分たちが考えた商品の最終案をプレゼンテーションするための準備を行う。 ○店の方に再考した案をプレゼンテーションする。	5
第三次 たくさんの人に商品をPRしよう（25時間）		
課題設定	○さつまいもを使った商品を販売している店に取材したことをもとに、自分たちが考案した商品の販売促進方法について見通しをもつ。	2
情報収集	○商品の販売に協力してくれる店で行っている宣伝方法について取材したり、完成商品の試食を行ったりする。 ○幕張にある印刷会社に取材する。 ○様々なチラシやポスターを集める。 ○実際に販売する商品の試食を行う。	5
整理分析	○チラシとポスターを比較しながら、それぞれの特徴を考え、自分たちのチラシやポスターに必要な要素を検討する。	6

	○グループごとにポスターとチラシの内容を考える。 ○ポスターとチラシのラフ画をもとに、採用するものを要素ごとに検討する。	
情報収集	○ポスターとチラシの試作品を作り、印刷会社や商品化に協力してくれる店の方にアドバイスをもらう。	5
まとめ表現	○アドバイスをもちに、ポスターとチラシを作成する。 ○完成したポスターを掲示したり、チラシを配布したりして商品の宣伝を行う。 ○協力してくれた方に活動報告と感謝の手紙を渡す。 ○食べた人のアンケートや協力してくれた方の感想をもとに、1年間の活動を振り返る。	7

7 小単元の流れ

第二次 さつまいもを使ったお菓子を考えよう

過程	主な学習活動 (○) 児童の思いや願い <input type="text"/>	支援 (◎) 主な評価 (☆) 関連する教科 (●)
課題設定 (2)	○さつまいもの商品を完成させるまでにすることを考える。 ○計画の順序について話し合い、見直しをもつ。 商品販売するまでにすることの順番が考えられた。さつまいもの商品を食べてもらったことで、さつまいもを好きになってもらったり、青木昆陽さんと幕張の関係を伝えたりできるように頑張ろう。	◎「P&Sシート」を用いて問題点や解決方法を書き出すことで、課題解決までに必要なことを整理できるようにする。 ☆思判表① ☆主体② ①
情報収集 (10)	○さつまいもを使ったお菓子を販売している店に商品開発の経緯や方法などについて取材する。 ○他の地域において、地域ならではの食材を生かして地域活性化を行っている商品を調べる。 ○さつまいもの種類や栄養、調理方法などについて栄養士に話を聞く。 ○さつまいもを使った商品を商品化してくれる店を探す。 ○販売協力店の既存商品や商品を考える上で気を付けることなどを取材する。 ○さつまいも料理を調べる。 青木昆陽は他の地域でも認められている。商品を通して自分たちの思いを伝えるためにも、まずはお客さんが買ってくれるような商品を作らないといけない。さつまいもでは様々な商品が作れるから、いろいろと考えられそうだ。	◎学区内で販売しているさつまいも商品と関連させて、商品開発に地域の様々な人たちが協力した「昆陽」を紹介し、取材することで、自分たちも地域の一員として幕張のため役に立ちたいという思いを高める。 ◎商品を考案するために、さつまいもの魅力を探ることで、さつまいもへの愛着を深める。 ☆知技① ☆思判表② ②⑤⑥
整理・分析 (4)	○さつまいもを使った商品の案をグループごとに考える。 ○幕張とさつまいもの関係が伝わる商品の名前を考える。 ○グループで考えた商品から店に提案するものを選ぶ。 思考ツールを使って話し合うと、何について考えるのかはっきりとしてそれぞれの商品の特徴がよくわかるようになった。でも、自分たちの意見だけでなく専門家やお客さんの意見も取り入れないといけない。	◎商品を決める際に、マトリックスを用いて複数の候補を複数の視点で評価することで、多面的に考える力を高められるようにする。 ☆知技② ☆思判表③ ☆主体①② ③⑦
情報収集 (3)	○自分たちが考えた商品を店の方に提案して、アドバイスをいただく。 ○地域の方々が食べてみたいさつまいも商品を調査する。 お店がアドバイスをくれたおかげで、もっといいクレープができそうだ。地域の人たちの意見も聞いてみると、今まで自分たちがこだわっていたことと異なる意見もたくさん出てきた。両方の意見をもとに考え直す必要がある。	◎自分たちの学習に協力してくれる人たちと関わることで、地域を大切にすることが自分たちの生活を支えていることに気付くことができるようにする。 ☆思判表②

整理・分析(2)	<p>○地域の方々の意見を表やグラフを用いて整理する。 ○店の方と地域の方々の意見を踏まえて、商品を改善する。</p> <p>グラフに表すと結果が見てすぐにわかるから便利だ。思考ツールを使っていろいろな人の意見をもとまた別の視点で考えることができた。考えたことをまとめてお店の人にどれを商品にしてくれるか聞こう。</p>	<p>◎地域の方々の意見と児童の意見を関連させて表やグラフにまとめることで、結果を視覚的にわかりやすく示す。 ☆思判表③ ☆主体①②④</p>
まとめ・表現(5)	<p>○自分たちが考えた商品の最終案をプレゼンテーションするための準備を行う。 ○店の方に、再考した案をプレゼンテーションする。 ○店の方からの感想をもとに小単元の振り返りを行う。</p> <p>商品を1つ作るには様々な工夫や苦勞が必要だ。自分たちが食べているものにも思いが詰まっているのだろう。自分たちの思いもさつまいも商品でたくさんの人に届けたい。</p>	<p>◎地域の飲食店の方と商品開発することを通して、普段自分たちが食べていたものもいろいろな方の工夫や努力の末できているということに気付くことができるようにする。 ☆知技③ ☆思判表④ ☆主体③</p>

関連する教科等

国語	<p>①目的や進め方を確認して、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる。 ②地域の店を訪ね、取材したり見学したりして見付けた工夫の中から、組み立てを考えて報告文を書く。 ③グループで話し合うことに協力して取り組み、集めた材料を比較したり分類したりしながら考えをまとめる。 ④考えとそれを支える理由や事例など、情報と情報との関係について理解している。</p>
社会	<p>⑤仕事の種類や工程などに着目して仕事の様子を捉えたり、地域の人々の生活と関わりをもって行われていることを理解したりしている。</p>
音楽	<p>⑥地域に伝わる音楽を鑑賞することで、郷土への興味・関心を高める。</p>
道徳	<p>⑦友達同士互いに力を合わせ、助け合おうとする心情を育てる。</p>